

## 平成21年度「三重大学地域貢献活動」実施報告書

### 1. 活動テーマ

町屋海岸を軸とした三重大学の社会的責任(USR) ～町屋海岸モデルの確立及び運用～

### 2. 活動組織

実施者 三重大学環境ISO学生委員会 指導教員 朴 恵淑 人文学部 教授  
共同実施者 北立誠小学校、町屋百人衆、三重県津建設事務所総務・管理室  
津市政策財務部、中部電力㈱環境・立地本部

### 3. 活動実施期間 平成21年4月～平成22年3月

### 4. 具体的な活動実施内容

本事業計画では、「素足で走れる町屋海岸」を目標に、三重大学生・教職員、地域住民、企業、行政機関による取り組みに、平成20年度からは北立誠小学校が加わる新しい連携の枠組みを構築し、海岸清掃活動に加え、北立誠小学校の児童への環境教育だけでなく一緒に不法投棄の問題を考え、海岸環境の在り方を検討、「町屋海岸モデルの確立及び運用」を目指している。平成20年度には、北立誠小学校とともに環境学習を行い、その環境学習で児童に描いてもらったポスターのデザインを使用した看板を町屋海岸に設置した。平成21年度は、20年度の活動に加え、児童に描いてもらったポスターを地域に展示、また、北立誠小学校PTAが行っている「しとも祭」で紙すき体験と北立誠小学校との連携活動や環境ISO学生委員会が日頃行っている活動の展示を実施、地域の方に海岸の現状と環境保全活動の大切さを知ってもらった。

#### 町屋海岸清掃事前ゴミ調査(町屋海岸清掃前)

ゴミ分布マップを作成し、清掃計画を立てて効率の良い清掃活動を行うため、町屋海岸清掃の前(約1週間前)に、海岸および堤防に放置されたゴミの分布や数量を把握する調査を行い、その後の活動に役立てた。

#### 不法投棄ゴミ調査(2009年9月6～13日)

不法投棄対策を立てるためのデータを集めるため、海岸清掃事前ゴミ調査において判明した町屋海岸の特に不法投棄が多い場所に関し、一週間にわたり調査を行った。詳細は別紙参照。

#### 町屋海岸清掃回収ゴミ種別、総量に関する調査(町屋海岸清掃終了後)

町屋海岸清掃で回収されたゴミについて、種別に集計し、総量を把握する調査を行った。また、そこで得られたデータを基に、ゴミの種別、総量の推移等についてデータを作成、その後に行う活動の参考とした。詳細は別紙参照。

#### 町屋海岸清掃参加人数調査(町屋海岸清掃時)

町屋海岸清掃の参加人数を把握し、推移について、データを作成、その後に行う活動の参考とした。詳細は別紙参照。

#### 北立誠小学校卒業記念植樹した松林の手入れ作業に参加(12月15日)

6年生の児童が、自治会と共に行う卒業記念植樹林の手入れ作業に参加、作業終了後に自治会の方々と町屋海岸の自然環境の現状について話をした。

#### 第1回北立誠小学校における環境学習(6月30日)

20年度に引き続き、児童と共に「町屋海岸からゴミを無くすにはどうすれば良いか」というテーマで、6班に分かれて、それぞれの班で学生委員と児童が話し合いを行った。

#### 第2回北立誠小学校における環境学習(10月26日)

1回目の環境学習で話し合ったことについてポスターを作成し、そこに込めた思いや作製過程で発展した認識などについて、児童と意見交換を行った。また、全児童が作成したポスターの発表を行った。

#### 第3回北立誠小学校における環境学習(2月19日)

三重大学翠陵会館に展示した児童が作成したポスターを児童に見に来てもらった。また、三重大学が行っている環境活動を児童に説明し、実際に見てもらった。

#### 北立誠小学校卒業式花道用鉢(プランター)植え作り(3月15日)

北立誠小学校卒業式の花道に使うため、児童とともに、三重大学で作った落ち葉堆肥を培養土に使用、三重大学農場で育苗されたパンジーの花をプランターに植えるとともに、落ち葉堆肥の効用や落ち葉堆肥を使用することの意義について児童に説明を行った。

#### しとも祭への参加(11月21日)

北立誠小学校で行われたしとも祭に参加し、紙すき体験と活動紹介のパネル展示を行い、地域住民の方々に三重大学環境ISO学生委員会や、町屋海岸の現状、地域貢献活動について紹介した。

#### 北立誠小学校児童のポスター学内展示(2月17～23日)

北立誠小学校児童が描いた全ポスターを三重大学翠陵会館談話室に展示し、三重大学生に見てもらい、感想を書いてもらった。詳細は別紙参照。

#### 北立誠小学校児童のポスター学外展示(3月1～5日)

町屋海岸への不法投棄抑制を呼び掛ける看板のデザインとして使われる予定のポスター(4枚)を、百五銀行津駅前支店栗真出張所に展示、地域の方に見てもらい、感想を書いてもらった。詳細は別紙参照。

#### [活動成果]

##### ○町屋海岸清掃事前ゴミ調査結果を基に清掃マニュアルの作成

この調査を基にゴミ分布マップ(清掃マニュアル)を作成し、清掃計画に活用、効率の良い清掃活動を行うことが可能になり、班別清掃により、適正な人員配分が可能になり、ゴミの取り残しが少なくなった。

また、ゴミ分布マップの作成に伴い以前のデータとの比較が可能になり、不法投棄されやすい場所を特定することができた。

##### ○北立誠小学校における環境教育(教室及び町屋海岸)

- ・町屋海岸への不法投棄抑制を呼び掛ける看板の設置(4か所)をした。
- ・町屋海岸の環境諸問題に関する情報共有と意見交換の機会を得られただけでなく、児童の環境に対する関心が高まりつつあると感じられる。
- ・しとも祭や学内展示・学外展示により、児童だけではなく、児童の保護者・学生・地域住民にまで、町屋海岸の環境諸問題に関する関心を高められた。
- ・第三回の環境学習を行うことで、町屋海岸に限らず、様々な環境活動に興味を持ってもらえた。

##### ○津なぎさまちにおける津市との連携

- ・津なぎさまちサマーナイトフェスタを津市と協働で開催
- ・津なぎさまちエコクリスマス～波・光・食のハーモニー～を三重県地球温暖化防止活動推進センターと協働で開催

#### 5. 地域への貢献(地域の発展・活性化への寄与、広がり)

産学官民が協力して素足で走れる町屋海岸を構築し、その不法投棄抑制方法を、「町屋海岸モデル」として、同じように不法投棄問題を抱える地域がモデルとすることができる。今現在は、北立誠小学校の児童と町屋海岸の不法投棄に関する環境学習を行い、環境学習を通じて児童が描いたポスターを町屋海岸の不法投棄抑制看板のデザインとして採用。また、児童のポスターを、百五銀行津駅前支店栗真出張所に展示し、地元の多くの方々に町屋海岸の現状について知ってもらうことができた。このことから、地元への波及効果は大きく、町屋海岸の不法投棄問題に関して動き出す大きな力となることが予想される。

#### 6. 共同実施者との連携状況

三重大学が中心となり、町屋海岸を軸とした認識共同体を構築し、町屋海岸の不法投棄をなくすことを目指している。

##### ○町屋百人衆との連携

三重大学が町屋海岸清掃を開始し始めた当初から町屋海岸清掃を協働で実施している。また、清掃活動だけでなく、不法投棄抑制の為にどのような活動をしていこうか話し合う機会を設け、話し合いを継続している。

##### ○中部電力(株)との連携

町屋海岸清掃に毎回参加していただいている。また、リーディング産業展での中部電力のブースで地域貢献活動を紹介、展示を通じて、町屋海岸の不法投棄防止のきっかけづくりを行った。

## ○北立誠小学校との連携

「町屋海岸から不法投棄をなくすにはどうしたらいいのか」というテーマで、北立誠小学校の児童と三重大学生が共に考える環境学習を行っており、2ヶ月に一度行っている海岸清掃活動の実施にあたっては、児童にも参加呼びかけを行い、実際に清掃に参加することで町屋海岸の現状について知ってもらうことができた。

また、町屋海岸の不法投棄防止の為、本年度も看板を新たに2基設置するとともに、昨年まで6年生との環境学習しか行ってこなかったが、今年度は、海岸清掃の告知、環境学習を実施していることを北立誠小学校の掲示板で掲示し、他学年の子にも知ってもらった。また、北立誠小学校PTAが行っている「しとも祭」でブースを出させていただき、環境学習や町屋海岸の現状について、小学校と大学が行っているだけでなく、小学校から地域へ発信できた。

## ○津市との連携

町屋海岸清掃を行った際に出るゴミの回収を行っていただいている。

## ○三重県との連携

三重県「伊勢湾森・川・海クリーンアップ大作戦」として、三重県の「津の美しい海づくり」実行委員会とともに、海岸清掃活動を共同実施した。また、児童が作成したポスターのデザインを使用した看板を町屋海岸に設置する際にアドバイスをいただいた。

## 7. 大学の教育・研究成果のかかわり

三重大学が進めている、環境マインドの高い学生を輩出する、という目標に沿っており、とても有意義な活動である。また、生物資源学部に町屋海岸に関して研究をしている教員もあり、その成果を海岸整備や環境学習に生かしている。

## 8. イベント等開催実績(名称、実施場所、参加人数等)

- 5月24日 第15回町屋海岸清掃 町屋海岸 三重大学生他 100名 55袋のゴミを回収
- 6月30日 北立誠小学校との環境学習 北立誠小学校 小学生 36名 三重大学生 14名
- 7月4日 第16回町屋海岸清掃 町屋海岸 三重大学生他 281名 252袋のゴミを回収
- 9月6～13日 町屋海岸ゴミ調査 町屋海岸 期間中 毎日朝 毎回三重大学生約4名
- 9月20日 第17回町屋海岸清掃 町屋海岸 三重大学生他 126名 54袋のゴミを回収
- 10月12日 MIE ECO Beach 2009 町屋海岸、三翠ホール 三重大学生他 100名 58袋のゴミを回収
- 10月26日 北立誠小学校との環境学習 北立誠小学校 小学生 36名 三重大学生8名
- 11月15日 第18回町屋海岸清掃 町屋海岸 三重大学生他 106名 125袋のゴミを回収
- 11月21日 しとも祭 北立誠小学校 三重大学生 10名 北立誠小学校児童多数
- 12月15日 卒業記念植樹への参加 町屋海岸 参加者 50名(児童、教員、自治会、学生)
- 2月17～23日 北立誠小児童ポスター展示 三重大学翠陵会館 参加者
- 2月19日 第3回北立誠小学校における環境学習 北立誠小学校 参加者 52名(児童、教員、学生)
- 3月1～5日 百五銀行栗真出張所三重大学前支店ポスター展示
- 3月15日 北立誠小学校卒業式花道づくり(環境学習) 北立誠小学校 児童 36名 三重大学生 12名
- 3月21日 第19回町屋海岸清掃 町屋海岸 三重大学生他 57名 50袋のゴミを回収

## 9. 次年度以降の計画

本事業計画は、3年間で町屋海岸を軸にした地域住民との環境問題に関する認識共同体を構築し、「素足で走れる町屋海岸」を後世に引き継ぐことを目指すものであり、次年度は最終年である。今まで行ってきたことをまとめ、「素足で走れる町屋海岸」を目指す第一歩として完結させる。そのために、引き続き支援をしていただきたい。

### [ 参考資料 ]

- 不法投棄調査考察(資料1)
- 町屋海岸清掃回収ゴミ種別、総量に関する調査(資料2)
- ポスター展示の感想(資料3)
- MIE ECO Beach 2009 表彰状(資料4)
- その他(資料5) (写真等)

## 平成 21 年度北立誠小学校との環境学習における外部からのご感想

### —校内展示で頂いた感想—

- ・石原君の絵が私的にベストです
- ・門山くんの言葉が小6なのにすごかったです
- ・白塚海岸で月 1 回浜そうじ活動に参加している白塚の浜を愛する会の会員です。今回の ISO 学生委員会の活動に感激しました。北立誠小学校 6 年生の皆さんのポスターはどの作品も町屋海岸からゴミをなくし、浜をきれいにしたいと思いが感じられます。私たちの会では、「ゴミを捨てないで」「自然豊かな白塚を浜を未来の子どもたちに送りたい」など、メッセージ付きの看板を描き海岸に立てています。

私の好きなポスターは、

- ・北村さんの作品「はだしで走れる砂浜へ」
- ・津坂さんの作品「みんなでつくろう笑顔の海」
- ・畑さんの作品「ずっときれいな海岸に」
- ・加藤さんの作品「海的笑顔をとりもどそう」
- ・大河内さんの作品「海のキレイはみんなのよろこび」

※時間がきてしまいました。その他の作品も思いがった作品ばかりでした。

- ・大人の目というのは、いろんな経験をしているので、良くも悪くも曇っている。しかし子どもは純粋です。実は子どもから学ぶことはたくさんある。このポスターを見ていろいろ感じたわけだが、とにかく子どもの発想はおもしろいものです。

- ・現在海が汚れているなどという環境問題は知っている事ではありますが、意識はされていないと思います。これらのポスターを見て私が気付かされたように他の人も気付いてくれると思います。よい作品ばかりだと思います。

- ・海岸からゴミを無くすのはとても困難です。捨てる人がいる限りなくなりません。子供達はこのことに気付いています。モラルの向上を願います。

- ・ISO の海岸清掃によく参加している者ですが、子供たちがこのようにゴミ問題に意識を持ってくれていることに嬉しく思いました。

- ・今日は猫の日です。子供たちが一生懸命伝えようとしているのが分かりました。下書きも一緒に展示しているのはいいですね。

- ・北立誠小学校の生徒達のポスターは、どれも「町屋海岸からゴミを無くすには？」を各生徒全員が真剣に考え描かれたものだと思います。全く同じ図柄のポスターはなく、各ポスターには生徒のオリジナルな考えが表されていると思います、こんなにも多くの生徒がゴミ不法投棄について考えたかと思うと感動します。これからもこのような活動を続けていってください。

### —百五銀行栗真支店での展示で頂いた感想—

(朴先生)

まちの銀行が子供たちの絵のギャラリーとしての機能をもつことになっていますね。すばらしい！地域への貢献活動として子どもたちの環境への思いを汲んでいただいていることに深く感謝します。このように地域の大学・小学校・銀行など社会全体がそれぞれの役割を担いながら広(?)められる環境活動が広がりをもってくれと信じています。三重銀行のみな様本当にありがとう。

## 2009 年夏季ゴミ調査結果による考察

三重大学環境 ISO 学生委員会 地域連携部

### 0. 調査方法

海岸側と堤防側に分け、以下の図に示した場所に①から③の番号を付け、9月6日(日)から9月13日(日)までの約一週間、それぞれの番号で調査を行った。



図 1, 調査地

### 1. 調査から得たデータの分析

9月6日(日)から9月13日(日)まで、持ち込みゴミが多いか海岸で出たゴミが多いかを調べるために、町屋海岸でゴミ調査を行った。その結果を以下に示す。

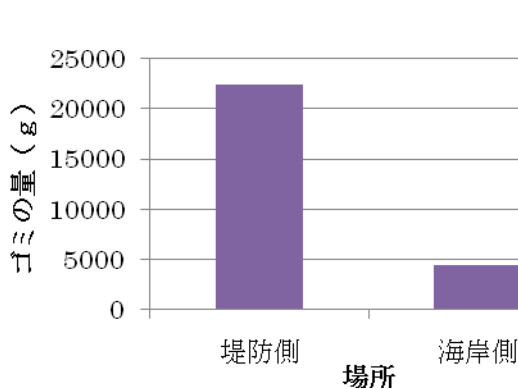


図 2, 堤防側と海岸側のゴミの量比較 (g)

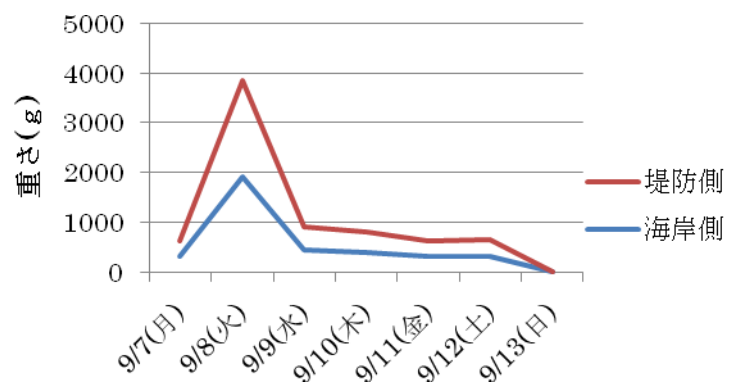


図 3, 曜日ごとのゴミの量の変化

9月6日(日)から9月13日(日)までの堤防側と海岸側のゴミの総量を図2に示した。図2より、堤防側のゴミの総量は22400gであり、また、海岸側のゴミの総量は4455gであるので、総量に大きな差があることがわかる。

堤防側と海岸側のゴミの総量を調査日ごとに分けたものを図3に示しました。図3より、曜日にかかわらず、ゴミの総量は海岸側より堤防側の方が常に多いことがわかる。

これらの結果から、堤防側にゴミがよく捨てられているものと思われます。したがって、堤防側の不法投棄対策が、海岸を素足で走れる町屋海岸を目指すのに必要不可欠である。

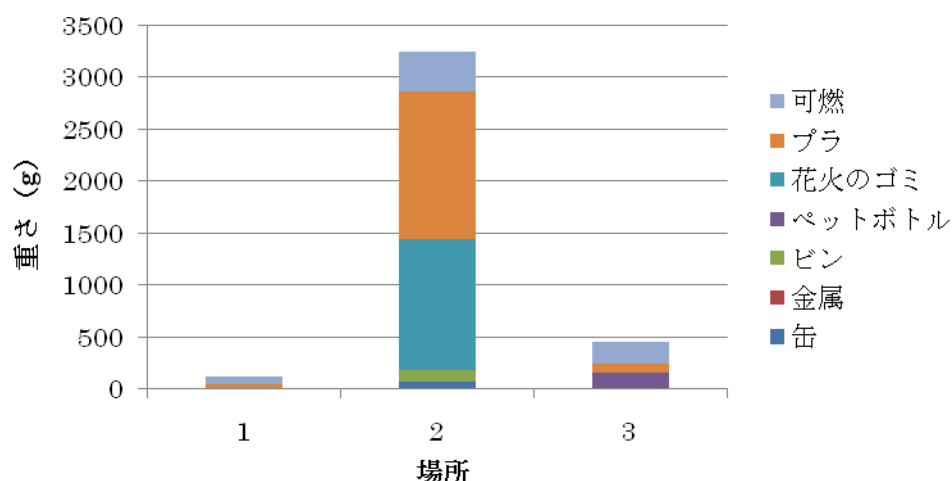


図3, 海岸側の場所別ゴミの量 (g)

海岸側を1、2、3の3カ所に分けて調査し、場所別のゴミの総量を測定したものを図3に示しました。図3より、1の場所のゴミの総量は124g、2の場所のゴミの総量は3390gであり、3の場所のゴミの総量は452gであるので、2の場所のゴミの総量が最も多いことがわかります。

2の場所は三重大学に近いので、学生が海岸に行きやすい場所です。したがって、多くの三重大学生が訪れ、遊ぶものと思われます。また、2の場所では特に花火のゴミやチャッカマン、着火剤の袋や缶、ビンなどが目立ちました。すなわち花火やバーベキューをする人が多いと思われます。これらの花火・バーベキューのゴミは海岸で出たゴミだと判断することができます。やはり、入口から近いところは花火やバーベキューなどのゴミが発生しやすく、

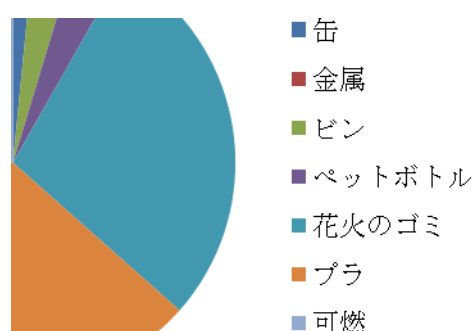


図4, 海岸側のゴミ (g)

海岸側に捨てられていたゴミを、缶、金属、ビン、ペットボトル、花火のゴミ、プラスチック、可燃の7種類に分別して、それぞれの割合を図4に示しました。図4より、最も多かったのはプラスチックであり、全体の約46%を占めており、花火のゴミ、可燃、ペットボトル、ビン、缶と続きます。金属はありませんでした。プラスチックのゴミでは、如雨露やプランターなどが落ちており、これらは漂着ゴミ

ミと考えられます。

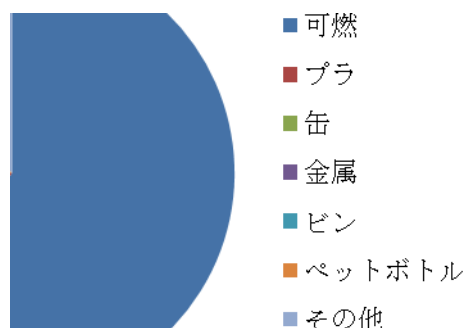


図 5、堤防側のゴミ（g）

堤防側に捨てられていたゴミを、可燃、プラスチック、缶、金属、ビン、ペットボトル、その他の 7 種類に分別して、それぞれの割合を図 5 に示しました。図 5 より、最も多かったのは可燃であり全体の約 59%を占め、プラスチック、その他、ペットボトル、缶、金属と続きます。ビンはありませんでした。可燃ゴミでは、多くのタバコの吸いながらタバコの空き箱が捨てられており、これらはポイ捨てゴミと考えられます。また、故意に捨てたと思われる袋に入った大量の紙きれが捨てられており、これは持ち込みゴミと予想されます。

## 2. まとめ

以上より、海岸ではバーベキューや花火など学生によって出されたと考えられるゴミ、堤防では衣類や家電製品など学生を含む近隣住民によって出されたゴミが多いと考えられる。

結果より堤防側のゴミの量の方が多かったので、不法投棄問題においては堤防側のゴミが最も大きな問題であると思われる。

ゴミが捨てられる要因として、雑草などが生えており周りから見えにくいようになっている町屋海岸の環境や、家電のリサイクルシステムが面倒だったりするためと考えられる。

これを見直すことで対策につながるのではないかとと思われる。

また、20 年度に堤防に 2 基の不法投棄防止啓発看板を設置したことで、堤防側の不法投棄が以前より減少したように思われる。したがって、今年度以降も引き続き看板を増設等し、不法投棄対策に役立てたいと考える。この調査結果をもとに、看板設置場所を考えたい。



# 賞状

ミエエコビーチ2009活動賞

三重大学環境ISO学生委員会様

貴団体の環境活動は  
美し国、三重の海を守るための  
取り組みとして優れていると  
認められました  
よってここに表彰します

平成二十一年十月十二日

ミエエコビーチ2009実行委員会

委員長 朴 恵淑

三重テレビ放送株式会社

代表取締役社長

志田 行弘

